

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年6月7日

【評価実施概要】

事業所番号	1071100158
法人名	医療法人 信愛会
事業所名	グループホームきらら
所在地	安中市鷺宮203 (電話) 027-382-7506

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年11月26日

【情報提供票より】(19年 10月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 13人, 非常勤 1人, 常勤換算	14人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建て	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	光熱費・預り金管理料
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200円		

(4) 利用者の概要(10月 31日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	2名	要介護2	7名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	64歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人信愛会 本多病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、街から離れた丘陵地にあり、窓からは山々が見渡せる景観をもつ静かな環境にある。道を挟んで併設される母体の病院と老人保健施設がある。ホームは2ユニットが並んで建てられ、玄関はそれぞれにある。双方のユニットは、台所の戸が解放され、つながっているため互いに行き来できるようになっている。中庭には、手作りの畑があり、自分たちで植えた野菜の生長を居室からも確認できる。朝のラジオ体操や歌うことが日課の中にあたり、食事の準備や片付けを入居者と職員が一緒に行なって生活を楽しめるよう支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題に前向きに取り組み、職員全体で理念の作成に取り組んでいる。また、時計やカレンダーを設置し、季節に合わせた飾り付けを行った生活空間づくりにも取り組んでいる。地域からも少しずつ声がかかるようになり、地域との交流も広がっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で、ホームの向上を考え、入居者中心のケアに心がけ自己評価を行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回開催し、市の職員や家族と話し合いがされている。会議での意見は、ホーム職員に会議等で報告している。設置主体者等も運営推進会議に参加するなど、ホーム全体で前向きに取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居前に、重要事項説明書にて苦情窓口等の説明をしている。運営推進会議での家族の意見や玄関に意見箱を設置する等、家族からの意見を積極的な姿勢で受け止めている。また、家族の来所時には、本人のホームでの様子やケアの方針などの状況報告を行い、情報交換に努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>住宅地から離れており、近隣との交流がしにくい立地条件であり、買い物や外出は自動車での移動となっている。そのため、併設の病院と老人保健施設との交流活動が中心であり、設置母体の活動を通して、様々な行事に参加している。現在、地域の老人会や民生委員から、行事への参加の打診が来るようになってきている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員で意見を出し合い会議等でまとめて、理念「入居者一人一人の思いを尊重し、和やかで心地良い生活が送れるよう支援をいたします。」を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づき、入居者の希望を聞き取り、職員全体会議等でケアの見直しを行うなど、入居者中心の考えのもと、管理者、職員ともども取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	設置母体の活動を通して、様々な行事に参加している。地域の老人会や民生委員から、行事への参加の打診が来るようになってきている。	○	設置母体の行事だけではなく、地域密着型サービスとしてのホーム独自性を活かした地元の人たちと交流の機会を持っていただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の取り組みとして、月1～2回会議を開催し、職員全体で理念の作成に取り組んでいる。また、時計やカレンダーを設置し、季節に合わせた飾り付けを行った生活空間づくりにも取り組んでいる。地域からも少しずつ声がかかるようになり、地域との交流も広がっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催し、地域や家族に通知し、参加の依頼をしている。会議では、食中毒や介護等についての勉強会を企画している。会議での意見は、ホーム職員に会議等で報告し、話し合った結果を回答している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの介護相談員の受け入れを行っている。また、運動会の行事へ招待したり、市で行なっているケアプラン検討会に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に随時、会議の報告や金銭出納状況の確認を行なっている。また、運営推進会議開催の通知は、定期的に行なっている。	○	通信の発行等、定期的に家族へ入居者のホームでの暮らしぶりが報告できるシステムを作っていただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の窓口は、入居時に重要事項説明書を交付して説明し、掲示をしている。また、玄関先には意見箱も設置され、家族等の意見が反映できるよう配慮されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動後1年間は、定期的に施設長が面接をしている。また、新人職員にはベテラン職員と一緒に行動し、入居者と馴染めるよう指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が、基礎研修に参加できるよう心がけている。また、ホーム内では緊急時の対応についての勉強会を開催して、職員のスキルアップに努力している。	○	経験等の段階に応じた勉強会や研修会等を計画的に開催し、日常的な職員教育となる仕組みを作っていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市で行なっているケアプラン検討会やグループホームの勉強会に参加してホームにおけるケアの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者の見学を受け入れている。家族のような関係づくりが出来るよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の会話を深め、昔の話をしながら情報収集を行い、個々の趣味や特技を活かして、ピアノの演奏や雑巾縫い等を一緒に楽しんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から話を聞いたり、本人との日常会話の中から引き出している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、月に2回ケアカンファレンスを開き職員全体で話し合いながら、作成している。家族への説明は、面会等来所した時に説明し、同意を得ている。	○	ケアプランの作成にあたっては、十分本人、家族の意見が反映できるよう工夫をしていただきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1度更新し、毎月評価を職員全体で話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	週に1~2回外食や散歩をしたり、花見などの計画をして実施している。買い物は、併設病院の売店や老人保健施設に来る洋品店を利用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院から、1週間に1回の定期的な往診がある。この他の受診に対しては、職員が付き添っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期について、随時家族と相談している。職員と看護師と検討して環境を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	守秘義務や入居者の排泄・入浴等の介護上でのプライバシーの保護等について個々の状況に応じて、職員へ口頭で説明し伝達している。	○	ケアのマニュアル作成や既存の伝達ノート等を活用し、文書や記録に残し、また、個人情報等の守秘義務についての書面での同意を得る等の工夫によって、職員へのプライバシー保護を図っていただきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の行動のパターンの把握に努め、一人ひとりの希望添えるよう努力している。	○	一人ひとりの行動について把握したことを本人の希望との関係性も併せて記録に残して、以降のケアの参考にしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から食器の片付けを、入居者と一緒に行なっている。また身体機能等に合わせた方法で、嚥下の状態に合わせて摂取できるよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回であり、曜日を決めて行なっている。入浴方法は、本人の身体状況に応じた見守りや介助を行い、浴槽には、みかんの皮や入浴剤等を入れ香りなど楽しんで入浴できるよう心がけている。	○	入居者の希望にあわせた入浴の機会づくりに努めていただきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌や料理、中庭の畑での野菜作り、植木の世話、花を育てるなど季節ごとの計画をして楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週に1～2回散歩に行ったり、中庭の畑仕事を行っている。また、併設施設や車での外出を行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2ユニットで互いに協力して入居者を見守って対応しているため、鍵はかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人の協力も得ながら、年1回避難訓練を行い、職員の行動を確認している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取と水分摂取を併せて確認している。献立は1週間分を、入居者の希望などを取り入れて、担当制で職員が作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂を中心に季節の花が飾られたり、季節の歌の歌詞等の季節感のある飾り付けがされている。廊下には、外出や行事の風景の写真を模造紙に貼り、生活感を演出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビや仏壇が置かれ写真が飾られる等、一人ひとりの生活スタイルに応じた空間となっている。		